

令和3年8月13日（令和3(2021)年度第7号）



# 全国保育士会委員ニュース

本ニュースは、全国保育士会委員、顧問、監事、都道府県・指定都市保育士会事務局に送付しています。

社会福祉法人 全国社会福祉協議会  
全国保育士会事務局

〒100-8980  
千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル  
TEL 03-3581-6503  
FAX 03-3581-6509  
Mail hoikushikai@shakyo.or.jp  
<https://www.z-hoikushikai.com>

## <ニュースの内容>

- 「第54回 全国保育士会研究大会」皆さまのご参加をお待ちしています！  
～遊びをせんとやあおもりけん 戯れせんとやあおもりけん～
- 中央教育審議会 初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会（第2回）が開催される（文部科学省）
- コロナ禍における児童福祉施設等の取り組みと今後の対応のポイントを整理  
～全社協「地域での生活を支える子ども・子育て家庭支援の推進に関する検討委員会」令和2年度の検討内容の整理～

## ◆「第54回 全国保育士会研究大会(WEB)」皆さまのご参加をお待ちしています！ ～遊びをせんとやあおもりけん 戯れせんとやあおもりけん～

本会では、第54回全国保育士会研究大会を、令和3年10月13日（水）にオンラインによるライブ配信にて開催いたします。

本研究大会は、子どもの最善の利益を尊重し、豊かな育ちを保証するために、保育者一人ひとりが知識の研鑽を積むとともに、保育の研究を深めていくことを目的に開催するものです。

実践研究分科会では、著名な学識者による解説を交えながら、1年をかけて積み上げた多様な実践研究に触れることにより、自らの保育実践の振り返りや新たな取り組みの創出につながる等、非常に多くの学びを得ることができます。

また、記念講演では佐藤弘道氏（NHK「おか

第54回  
全国保育士会研究大会  
開催要項

「子ども主体の保育」の理解促進と質の向上をめざして  
～遊びをせんとやあおもりけん 戯れせんとやあおもりけん～

新型コロナウイルス感染症への対応が長期化するなか、令和2年12月の新子育て安心プランの策定や、保育所における自己評価ガイドライン【改訂版】の適用など、子どもの育ちと保育をめぐる状況は大きく変化しています。しかし、そうしたなかにおいても、子どもを中心に考えた保育の質を確保・向上することが何より重要である。

また、児童虐待や子どもの貧困などの課題が深刻化・複雑化するなか、保育所・認定こども園などで働く保育士・保育教諭等は、日ごとの保育を通して、子どもや保護者のさまざまな変化にいち早く気づき、支援することが期待されます。そして、保育士等自身が、「子どもを尊重すること」や「子どもの人格権」について、常に意識を高め、深めていくことも忘れてはならないことです。

加えて、保育士等の処遇改善とともに、若い世代への保育の仕事の理解促進、保育の魅力の発信によって、保育人材の確保と養成をすすめるとともに、誇りとやりがいをもって働き続けられる職場づくりに取り組むことが必要です。

本研究大会は、子ども一人ひとりの最善の利益を尊重し、豊かな育ちを保障するために、全国の保育関係者が集い、保育者一人ひとりが知識の研鑽を積むとともに、保育の研究を深めていくことを目的に開催します。

期 日 令和3年10月13日(水)  
実施方法 Zoomを使用した  
オンラインによるライブ配信  
※一部、事前収録によるプログラムあり  
※パソコンやインターネット環境はご自身でご準備ください。

主 催 全国社会福祉協議会・全国保育士会・全国保育協議会  
青森県保育連合会  
実施主体 全国保育士会 青森県保育連合会  
後 援 厚生労働省 青森県  
青森県社会福祉協議会

あさんといっしょ」第10代体操のおにいさん)に、日本初の「親子体操博士」の視点でお話しいたします。

「例年だと会場まで遠くて参加できなかった」という皆さまも、ぜひこの機会にご参加ください。

### 【第54回全国保育士会研究大会の概要】

期 日：令和3年10月13日(水)

実施方法：Zoomを使用したオンラインによるライブ配信

主 催：全国社会福祉協議会・全国保育士会／全国保育協議会  
青森県保育連合会

参加費：会員10,000円、会員ではない方15,000円、学生2,000円

申込締切：令和3年8月20日(金)

内 容：・オープニングアトラクション

／ダンス&ボーカルユニット「RINGOMUSUME」

・基調報告／村松 幹子(全国保育士会 会長)

・行政説明／厚生労働省 子ども家庭局 保育課

・記念講演／佐藤 弘道 氏

(NHK「おかあさんといっしょ」第10代体操のおにいさん)

・実践研究分科会(第1～8分科会、特別分科会)

詳細につきましては、開催要項(下記ホームページ)をご参照ください。

### 【開催要項ホームページ】

<https://www.z-hoikushikai.com/kensyukai/index.php?category=2>

また、参加申し込みは、下記専用ページからもお申し込みいただけます。ぜひご利用ください。

### 【第54回全国保育士会研究大会 申込専用ページ】

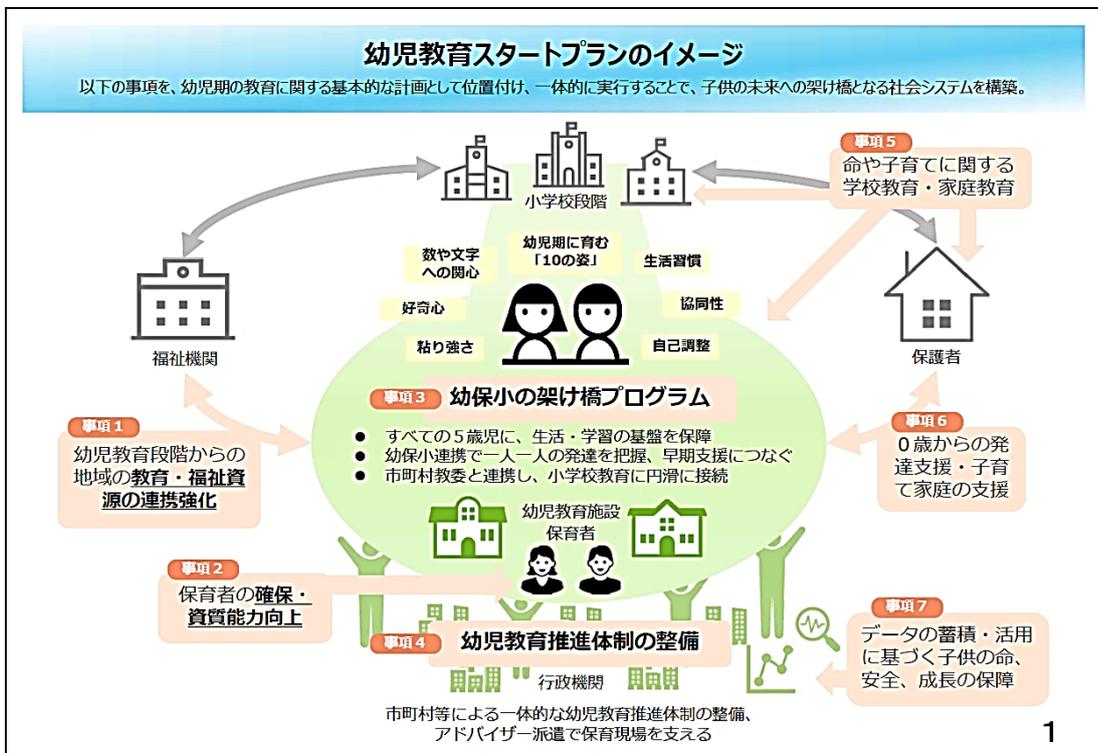
<http://www.mwt-mice.com/events/2021hoikushikai54>

## ◆ 中央教育審議会 初等中等教育分科会 幼児教育と 小学校教育の架け橋特別委員会(第2回)が開催される(文部科学省)

令和3年8月10日、「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会(第2回)」が開催されました。

この委員会は、経済財政諮問会議(第6回、令和3年5月14日)において、萩生田

光一文部科学大臣が公表した「幼児教育スタートプラン」(ことばの力、情報を活用する力、探求心等の生活学習基盤をすべての5歳児に保障する方策や、各地域において幼児教育を着実に推進するための体制整備、保護者や地域の教育力を引き出すための方策等の7つの項目により構成)の検討に向け、設置されたものです。



委員会の「主な検討事項」や「主な論点(案)」として下記が示されており、今年度中に5歳児向けの教育プログラムを作成し、来年度からモデル事業を行うとされています。

### 主な検討事項

- 生活・学習基盤をすべての5歳児に保障するための方策
- 各地域において幼児教育を着実に推進するための体制整備
- 保護者や地域の教育力を引き出すための方策、保育人材の資質能力の向上といった幼児教育の質的向上及び小学校教育との円滑な接続を図る上で必要な事項

### 主な論点(案)

1. 幼児期の学びの特性
2. 幼児教育の質を支える要素
3. 幼児教育と小学校教育の接続期における教育の質の現状と課題
4. 一人一人の成長を支えるために配慮すべき事項

第2回委員会では、第1回に引き続き委員からヒアリングが行われ、自治体における子ども関連施策の担当部局の一元化の取り組みや、県全体での保幼小接続の実践プランの取り組み、特別な配慮を要する子どもの幼児教育と小学校への接続等について発言が行われました。

また、その後の委員からの発言では、「『ここまで育てる』だけでなく『ここまで育った』を小学校側が受け止めることも必要」「保幼小の接続の際には、子どもの接続だけでなく、保護者への接続支援も必要」「公立・民間、地域等の差を乗り越えるための取り組みが必要」などの意見が挙がり、今後の委員会のなかで継続的に検討が進められる予定です。

資料等の詳細は下記ホームページをご確認ください。

■文部科学省トップページ > 政策・審議会 > 審議会情報 > 中央教育審議会 > 初等中等教育分科会 > 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/086/index.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/086/index.html)

## ◆ コロナ禍における児童福祉施設等の取り組みと今後の対応のポイントを整理 ～全社協「地域での生活を支える子ども・子育て家庭支援の推進に関する検討委員会」令和 2 年度の検討内容の整理～

全社協児童福祉部では、令和 2・3 年度事業として「地域での生活を支える児童福祉施設等による子ども・子育て家庭支援の推進に関する検討委員会」での検討を進めています。

本検討委員会は、地域の子ども・子育て家庭が抱える制度の狭間の福祉ニーズと、その継続的な支援に向けた具体的な取り組み状況の把握と課題の整理を行い、全国的な展開を図ることをねらいとしています。保育所・認定こども園、児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設の児童福祉関係施設種別協議会のほか、社会福祉協議会、学識者の参画によるものです。

この度、令和 2 年度における検討内容を、本検討委員会における議論の途中経過として整理しました。令和 2 年度は、ニーズや支援の実施にあたりコロナ禍の特殊な状況があったため、その影響を踏まえ、コロナ禍における子ども・子育て家庭への支援状況の検証や課題の整理を行っています。

各施設種別における取り組み事例等の紹介や、事例のより詳細な解説動画を全社協ホームページに公開していますので、各保育所等における地域に向けた取り組みにご活用ください。

なお、本検討委員会は令和 3 年度も引き続き開催し、年度内に最終的な取りまとめを行うこととしています。

## 【事例の解説動画】

I. 保育所・認定こども園の取り組み ①

～感染防止策に配慮した  
子ども同士の交流の場の再開～  
(幼保連携型認定こども園 明照保育園)

令和2年3月2日より始まった小学校、中学校、高校、特別支援学校の一斉休校は、当初は春休みまでの措置でしたが、その後、5月末まで続きました。一方、保育園や放課後児童クラブは開所を続けていたので、いわゆる「3密」を避けながらの運営をせざるを得ませんでした。「行事なんでもってのほか！」という社会的な雰囲気の中でしたが、子どもたちが我慢をしながら生活をしている様子も伺えたので、6月からは3密対策を徹底した上での行事の再開をしました。

その中のひとつが、7月に行われた児童クラブの「夜の集い」でした。例年、保育園に泊まって、クラブ生たちが自分たちで考えたお店屋さんやゲームコーナーをやっていたので、「お泊まり」こそなくなりましたが、子どもたち自身で「密」を避けたやり方を考えていきました。

体が触れあうゲームは出来ませんでしたので、輪投げやナイトプール、花火を楽しみました。

園としても気を遣いましたが、子どもたちが心底楽しそうにしていたのと「イベントって、やっぱり楽しいな～！」という声に救われる思いがしました。



- 全国社会福祉協議会 > 調査・研究報告等 > 地域での生活を支える児童福祉施設等による子ども・子育て家庭支援の推進に関する検討委員会「令和2年度における検討内容の整理」

<https://www.shakyo.or.jp/tsuite/jigyo/research/2020/210721jidoufukushi/index.html>